



学校運営方針		「鍛え、ほめ、可能性を伸ばす」ことで、全人的な人間教育と生徒一人一人の自己実現をめざす。			
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標	評価(3月)	
<p>本校は生徒たちを取り巻く環境の変化に対応するため、これまでの教育活動を検証し、更なる高みを目指して発展させる時期に来ている。</p> <p>本校がこれまで取り組んできた生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の成果は現れているが、より一層地域や保護者から信頼される学校づくりが必要であると考えている。</p> <p>今年度は生徒の志を高め能力を引き出すことができるよう、教職員が各々の力を結集し、組織的に推進することが学校運営の課題である。</p> <p>また、生徒会や部活動を主体としたボランティア活動を積極的に行い、一層地域に開かれた地域密着型の学校づくりを目指す。</p>		○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、評価の見直しを図ることにより、生徒の確かな学力の定着を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動や体験活動、ICT等を活用した学習活動等の充実を図る。 ・「授業で勝負」の理念のもと、常に日々の授業を検証、改善し、学習意欲の向上による確かな学力の定着を図る。 ・観点別評価や多面的・多角的な評価の充実を図る。 		
		○カリキュラム・マネジメントを通して、教育活動の質の向上を図り、生徒が高い志を持って意欲的に学べるよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒の学びに向かう力を高めることができるよう、教育活動を検証することにより質の向上を図る。 ・特別活動(ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事)や部活動等を充実させ、たくましい人間力、コミュニケーション力の育成を図る。 		
		○高大接続改革への対応を図り、生徒一人一人の自己実現、進路実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路意識の高揚を図り、多岐にわたる進路目標に対応した「南高スタンダード」を確立する。 		
		○成年年齢の引き下げに伴う社会の変化に対応し、生徒自らが多様な価値観の人々と協働し、社会で活躍できる人材を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動等を通して、他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく、実践力を備えた人材を育成する。 		
		○生徒の発達段階に応じ、健やかにして豊かな情操を身につけた人間を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を行う。 ・インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、教育活動全体において特別支援教育を推進する。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務課	学習意欲を涵養し、主体的に学び、考える姿勢を育む教育を推進する。	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。</p> <p>評価の見直しを図ることにより、生徒の確かな学力の定着を目指す。</p> <p>生徒が高い志を持って意欲的に学べるよう努める。</p>			
	教務部の組織化を進め、効率的な業務運営を行う。	<p>情報広報課と協力しながら業務を組織的に進め、生徒情報管理システムの安定的な運用を行う。</p> <p>時間割作成・管理システムの安定的な運用を行う。</p> <p>共有フォルダを効率的に利用し、円滑な業務運営を行う。</p>			
	カリキュラム・マネジメントを通して、教育活動の質の向上を図る。	<p>学習指導要領の改訂、高大接続、新テスト導入を見据え、定期的に教科会議を開催し、情報共有を行う。</p> <p>新たな学習・指導方法に対応するための情報を収集する。</p>			
情報広報課	ホームページの更新と広報活動向けのパワーポイント等を作成する。	<p>部活動の大会実績や学校行事の記録写真を共有フォルダに保存し、ホームページや校内掲示板へ定期的に掲載できるようにする。</p> <p>ホームページの更新については、各分掌で更新作業ができるように推進を図る。</p> <p>広報用のパワーポイントを作成し、体験入学や学校説明会など積極的な広報活動に努める。</p>			
	情報機器の管理や情報機器の利用促進を図る。	<p>利用記録簿をデジタル化したことにより、円滑に運用・管理を行う。</p> <p>デジタル教科書等のソフトを充実させ、電子黒板などICTを活用した授業の推進を図る。</p>			
	成績処理の学年担当者による管理・処理を行う。	<p>教務課と連携し、調査後に速やかに確認表の作成を行い、迅速な成績処理を行う。</p> <p>入試システムや時間割システムの使い方の引継ぎを行い、適切に処理が行える人材の育成を図る。</p>			
生活指導課	八幡南高校生としての自覚を身に付けさせるとともに、基本的生活習慣の確立を図る。	<p>定例の会議や職員研修等を通じて全職員が共通認識を持ち、連携して生徒を指導することで学年間の指導の格差をなくす。</p> <p>教員と保護者の連携を深め、学年間、他分掌との情報交換も密に行いながら生徒指導を行う。</p>			
	安心で安全な学校生活を送るために、自主・自律の精神を育成する。	<p>職員間の連携を深め、共通認識を図った上で、生徒会活動及び各種委員会活動を活性化させる。</p> <p>学校生活アンケート、いじめ調査の内容及び実施方法を改善し、生徒の声をよく聴きながら指導にあたる。</p>			
	校外での事故を未然に防ぐために、交通安全教育を推進する。	<p>自転車事故を想定した交通安全教室の実施や、リーフレットの配布を通じて、交通安全に対する意識を高めさせる。</p> <p>危機管理マニュアルを見直し、研修を通じて職員全体が、事故後の対応・保護者への連絡等共通認識のもと、連携して対応できるようにする。</p>			
保健課	生徒の健康保持、感染症への予防・対応を図る。	<p>保健委員会活動の充実を図り、保健日よりポスター制作などの活動を通して自主的な健康管理を促す。</p> <p>インフルエンザ等の感染症に関しては、特に予防のための注意喚起や環境整備を行う。</p>			
	生徒の日常における校内環境美化への意識向上を目指す。	<p>整美委員会の活動を通して、全校生徒の環境美化に対する意識の向上を図る。(月例大掃除、美化コンクール)</p> <p>清掃区域、清掃分担を的確に決め、日常の清掃活動や月例大掃除で時間いっぱい清掃活動に取り組ませる。</p>			
	多様化する個々の生徒への理解・支援を図る。	<p>担任、学年、保健室、カウンセラーとの連携をとり、個々の生徒の情報共有や生徒の支援体制の充実を目指す。</p> <p>職員研修等で支援を要する生徒の特性やその支援の在り方について、理解を深める機会を設定する。</p>			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
進学対策課	多様な進路目標に対応できる進路指導体制の構築。	アウトソーシングを活用し、進路講演会・大学説明会等を行い、進路目標を明確にさせる。 校外での各大学主催のオープンキャンパス・体験授業やボランティア等の体験的な活動への参加を促していく。		
	進路実現に向けて、主体的に行動できる生徒の育成。	PDCAシートやデジタルサービスを活用し、生徒が主体的に模試へ取り組める指導体制を構築。 希望制課外、希望制模試を効果的に行い、学力向上に繋げていく。		
	高大接続改革を見据え、体系的なキャリア教育の構築を図る。	総合的な学習の時間や総合的な探究の時間を活用し、生徒の学習意欲の喚起と入試対策へと繋げていく。 本校としての総合的な学習の時間と総合的な探究の時間の狙いを明確にし、組織的な指導体制を構築する。 北九州市、近隣大学、地域企業・団体との連携を深め、探究学習の実施計画を構築していく。		
		表現力育成プログラムにおいて、体系的な小論文指導と希望制のグループディスカッション講座等を行っていく。		
就職・公務員対策課	2年次より体系的な指導体制を構築する。	大学・専門学校と連携し、公務員指導講座や面接指導を例年より増やしていく。 公務員志望の生徒には、積極的にボランティアに参加させ、社会貢献活動の体験を積ませる。		
研修課	「生徒の主体性を引き出す授業」をテーマに授業改善に取り組み、教科指導力の向上を図る。	年間を通して自教科だけでなく他教科の授業も参観して参加レポートを提出し、授業改善に努める。 学習指導案や協議記録などを共有し、授業改善の参考にできるようにする。		
	職員研修の充実を図る。	各分掌と連携して、本校の実態に合わせた校内研修を実施する。 校外における研修会などの情報を提供し、研修意欲の喚起に努める。		
図書課	読書活動の推進と、図書館利用の促進を図る。	図書館オリエンテーション、朝読書、ビブリオバトルを通して、図書の貸出冊数増加を図る。 小論文対策用書架を充実させ、進路指導における図書館の有効活用を勧める。 図書委員会の活動(図書委員会だよりの発行、移動図書館、古本市など)を充実させる。		
		式典、行事の流れが把握できるよう、時系列的に要項を作成する。PTAの各種委員会との連携を深める。 互助会の意義を周知し、全職員で組織的に取り組む。 関係消防署と連絡調整を行い、教員・生徒の安全・防災意識の向上につなげる。 火元責任者を周知徹底する。		
庶務課	式典、学校行事の綿密な企画と、PTA活動、互助会活動の円滑な運営を行う。	式典、行事の流れが把握できるよう、時系列的に要項を作成する。PTAの各種委員会との連携を深める。 互助会の意義を周知し、全職員で組織的に取り組む。		
	防災意識の向上を図る。	関係消防署と連絡調整を行い、教員・生徒の安全・防災意識の向上につなげる。 火元責任者を周知徹底する。		
人権・同和教育推進委員会	生徒の人権感覚の育成、人権意識の向上を図る。	奨学金の募集時期や種類を生徒に解りやすく周知し、修学及び進学を経済面から支援する。		
	生徒一人一人に対する確かな学力と進路を保障する。	生徒の実態や社会の情勢に対応した人権学習教材を用いて、生徒の心に届く授業づくりを全職員で行う。 7月・12月に人権教育・啓発週間の取組を実施する。また、生徒会と連携し、啓発活動を行う。 人権・同和教育推進委員会を定期的に開催し、情報交換を行う。また、情報共有のシステムを整備し、職員の共通認識を図る。		
	特別な支援や配慮を必要とする生徒への支援体制を整える。	他分掌と連携しながら、学習面や生活面で様々な課題を抱える生徒の情報を共有し、必要な支援へと繋げる。 中高連絡会や入学式時の相談コーナーなど、様々な機会を通して生徒の状況把握に努め、個々の生徒に応じた必要な配慮や支援を行う。 スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーター、関係諸機関と連携しながら、支援体制を整備する。		
第1学年	八幡南高校生としての自覚と誇りを持った生徒を育成する。	生徒が主体的に活躍する八幡南高校スタイルと礼儀や規律を身につけられるよう学校行事を通して支援する。 部活動や生徒会活動への参加を奨励し、多様な人間関係の中で豊かに成長できるように支援する。		
	主体的に学び自ら進路を模索する生徒を育成する。	授業を大切に、基礎学力の向上を図って、主体的に学びに向かう姿勢を涵養する。 小テストや定期考査、模擬試験の大切さを理解させ、PDCAサイクルの中で自らの進路実現を目指すよう促す。		
	学校が安心・安全の場となるよう良い学年集団作りを行う。	学年代表を中心に生徒組織を作り、一人一人が良い集団作りに貢献している自覚の下に行動するよう促す。 自他の美点を見ることがや前向きな思考・発言ができるような声掛けをして、明るく思いやりのある集団に育てる。		
第2学年	八幡南高校生として自覚を持ち、規律ある生徒の育成を図る。	学年スローガンを常に意識するような学年集いを複数回実施する。 「学校生活におけるマナー」を再度確認し、継続した指導を行う。		
	目標実現に向けて学習する生徒の育成を図る。	模試の目標設定および振り返りを行うことで、自分の位置を確認し、学習意識の向上を図る。 様々な職業分野について研究を行うことで、自分の進路希望の再設定を行う。		
	中堅学年として学校を牽引するリーダーの育成を図る。	学年代表及び各種委員長を中心としたリーダーシップだけでなく、リーダーを支えるフォロワーシップも涵養する。 集団のリーダーとなれる生徒を多く育成し、生徒が自主的に取り組める修学旅行を成功させる。		
第3学年	全生徒に第一希望進路を達成させる。	朝課外、放課後課外、校内模試、校外模試への積極的な参加を促す。 学年の進路行事(GW勉強会、夏季勉強合宿等)への積極的な参加を促す。		
	学校を中心に据えた生活習慣を確立させる。	クラスの出席状況がクラスの進路目標達成に大きく関わることを常に伝え、欠席しないクラスの雰囲気を作る。 最上級生として1、2年生の範となる学校生活を送らせるための指導を継続して行う。		
	母校愛に溢れる生徒の育成を図る。	部活動の活躍が母校愛の涵養へとつながると考え、HRや学年集会をとおして部活動を学年全体で応援する。 社会に出た時に必要な最低限の「マナーとエチケット」の指導を継続して行い、最後の1年でその総仕上げを行う。		